

<菊花賞>

◎ワールドプレミア

○ハウオウサーベル

▲ヴェロックス

△ヒシゲッコウ

×ニシノデイジー

注ザダル

注サトノルークス

注レッドジェニアル

☆【推奨穴馬】・【人気馬オプション】

5番ワールドプレミア

若葉Sの後に骨折が判明。クラシックへの出走が叶いませんでした。しかし、復帰緒戦となった前走の神戸新聞杯では<2>着のヴェロックスから0.2秒差・<3>着。0.5秒差だった若葉Sから着差を詰めました。これまでは33秒台の上がりタイムさえもマークしていなかっただけに、前走でメンバー中最速の32.3秒を使えたことも大きな収穫となりました。また、二四に距離が延びたことも好材料として働いたと見る事が出来ます。『前走時はパドックでは落ち着きがなく、発汗も見られた。しかし、この中間は調教時に馬場入りする時に落ち着いている。1回使ってガス抜きは出来ている。春とは状態が違う。』と陣営が述べていることから、使われたことによる状態面の上積みは大きなものが期待出来そうです。レース振りからは三千の距離が味方になりそうですし、ヴェロックスとの逆転までも考えたい存在です。アタマの妙味を感じます。

15番ハウオウサーベル

デビュー前から高い評価を受けていた馬。新馬戦で文句ないパフォーマンスを見せ付けてクラシック路線に乗るかと思われましたが、春は出走すら叶いませんでした。しかし、陣営は慌てることなくじっくりと我慢。成長を促し、1勝クラスの平場と2勝クラスの阿賀野川特別と連勝を飾りました。特に、前走は後続に0.8秒差を付ける圧勝劇。走破時計2.11.7も上々のもので、強い内容でした。その後は賞金的にもこの菊花賞に使える保証は全くなかったのですが、それでも馬最優先でトライアル戦は使わず。結果出走が叶った訳ですから、ローテーションに余裕を持つことが出来て、状態面は相当良いものが期待出来るでしょう。新馬戦・1勝クラスで上がり33.8・33.9秒と軽い芝で切れる脚を使っているだけに、台風の

影響を受けた馬場レベルが心配材料となります。ただ三千の距離に関しては、『スタミナの塊。距離が延びて楽しみ。』という陣営の心強いコメントがあるだけに、心配ないでしょう。

13番ヴェロックス

リステッド競走の若駒S・若葉Sと連勝して挑んだ3走前の皐月賞ではサートウルナーリアに僅かにアタマ差・<2>着。そして続く2走前の日本ダービーでは0.4秒差・<3>着でしたが、サートウルナーリアを差し返して0.1秒差を付けました。今秋緒戦となった前走の神戸新聞杯では0.5秒差という大きな着差を付けられてしまいましたが、しっかりと<2>着を確保。上がり32.5秒という一応の瞬発力も示しました。何より春のクラシックで激戦を演じたサートウルナーリア・ダノンキングリー・ロジャーバローズの名前がないのですから、重賞勝ちこそないとはいえ実績で言えば断然の存在と言えます。『スタミナがあるし、折り合い面もそれほど心配していない。三千は十分にこなせる距離。』と陣営は力強くコメントしていますし、また『阪神が駄目なわけではないが、京都はより良いような気がする。』とも続けています。夏場に台頭してきた新生勢力との力差が鍵となりますが、条件面には課題がほぼ皆無なだけにここでも大崩れはないでしょう。

7番ヒシゲッコウ

これまで4戦3勝。唯一敗れたのがデビュー2戦目に挑戦したプリンシパルS。スタートで後手を踏みながら、メンバー中最速の上がり33.5秒を繰り出して0.3秒差・<3>着まで追い込んだ内容は決して悪いものではありませんでした。二千のレース振りが忙しく感じていただけに、前走の阿寒湖特別で二六に延びる点はプラス材料に働くと感じていましたが、その推測通りに後続に0.3秒差を付けて快勝しました。二六の距離を経験している馬も出走馬中で同馬しかいないだけに、距離面に関してのアドバンテージがあります。三千が長いということはまずないでしょう。京都は初めてになりますが、敗れたプリンシパルSの内容からも今の馬場レベルならば問題ないでしょう。あとは、『少しテンションが高いところがある。』と陣営がコメントしていることから、初の長距離輸送が課題となります。これをクリア出来れば。

2番ニシノデイジー

後方から追い込み一辺倒のレースとなっていますが、2走前の日本ダービーでは<3>着のヴェロックスから僅かに0.1秒差。前走のセントライト記念も<5>着止まりでしたが、メンバー中最速の上がり35.0秒は<2>着のサトノルークスよりも0.5秒上回るものでした。レース振りからは距離延長は大歓迎に映ります。6走前の東京スポーツ杯2歳Sではライバル勢に不利があったとはいえ、ヴェロックスやホウオウサーベル・アドマイヤスコール・ナイママとここに出走する面々を上がり33.9秒を繰り出して降しています。このメンバーではヴェロックスに先着している馬は同馬ただ1頭です。直線の長い広いコースの方が合

っている印象があり、長距離輸送が初めてな点は気になるものの京都へのコース替わりは好感が持てます。ルメール騎手を獲得出来たこともアピール材料になりますし、一発に注意を。

1 番ザダル

ここまで4戦3勝。ダービーの出走権が得られるプリンシパルSを勝ちましたが、雹のために1週順延したローテーション面を考慮されて本番は回避されました。4ヶ月振りとなった前走のセントライト記念では0.4秒差・<3>着と初めて土が付いたものの無難な内容を残しました。三千の距離がどう働くかは微妙ではありますが、レース振りが上手い馬なので、ロスなく運ぶことが出来るこの最内枠は味方になります。ここでも馬券圏内を窺える位置にはいます。

14 番サトノルークス

新馬戦こそクビ差・<2>着に敗れましたが、未勝利勝ちから3連勝。4走前のすみれSでは、ホープフルSで<2>着としたアドマイヤジャパンを子供扱いして圧勝しました。クラシックでも十分通用する力を持っていると見ていましたが、皐月賞・日本ダービーは<14>・<17>着と大敗を喫してしまいました。そして、復帰戦となった前走のセントライト記念でも、戦前に陣営からは『晩成型で本当に良くなるのは来秋頃だと思っている。』という弱気とも取れるコメントが出ていましたが、結果は0.3秒差・<2>着と好走。力を持っていることを改めて示しました。『前走後はそれほど反動もなく、状態はグンと上向いてきた。』と状態面上昇をしっかりとアピールしています。三千の距離がどう出るかですが、これまで上がり33秒台を一度もマークしたことの無い馬。渋太さが持ち味に映るだけに、味方になっていいでしょう。その目論みが正しいものとなれば。

12 番レッドジェニアル

この京都コースに2-0-2-0という良績。3走前の京都新聞杯では続く日本ダービーを制するロジャーバローズを差し切った初重賞勝利でした。日本ダービーはスタートで出遅れ後方からの運びとなってしまいました。<3>着のヴェロックスからは0.4秒差しかないのですから、悲観するような内容ではありません。この秋緒戦となった前走の神戸新聞杯ではスタートが良化。3番手に付けることが出来たことは一応の成長と言えます。自身上がり33.1秒を使いながらも1.0秒差に終わっていることから、決め手勝負に流れは向きません。それだけに、距離が三千に延びるのは好感が持てます。コース相性の良さで上りを要する競馬になった際の渋太さには注意を払いたい存在です。

☆【季節・気候馬オプション】

2番ニシノデイジー (◎)

全3勝を気候／暖で挙げる馬。

昨秋にヴェロックスを下し重賞を制した点にも注目したいところです。

9番ヴァンケドミンゴ (○)

気候／寒～涼【0-1-0-3】に対し、気候／暖以上【3-0-1-2】。

今後苦手な気候に差し掛かる点を考えると、ここは最大の狙い目かもしれません。

3番カリボール (△)

気候／暖は2戦2勝と負け知らず。

得意気候下での好パフォーマンスを警戒します。

15番ハウオウサーベル

気候／暑～酷暑で連勝中の馬。

昨秋に気温下降局面で凡走を喫している点に不安が残ります。

☆【波乱度オプション】・【買い目オプション】

野芝に洋芝をオーバーシードした状態で施行されます。

2回連続開催となり、前半9日間はAコース使用・中間4日間はBコース使用・後半4日間でCコース使用となります。

Aコース使用3週目です。

『先週の降雨での競馬の影響により、コース全体の内側に傷みが出始めました。』という発表です。

芝丈は、野芝が10～12cm・洋芝が12～16cmと、先週よりも洋芝が短めに設定されています。

土曜日9R 久多特別<2勝クラス> (芝千四) のシトラスノートが1.22.2・「稍重」。かなり時計が掛かっています。

2年前のキセキが勝った菊花賞時は、そのダメージを野芝が生育する翌年の夏場まで約1年間も引き摺ることになってしまいました。

当時ほどではないとしても、パンパンの「良」でも時計が掛かってくる可能性があります。そのあたりをしっかりとチェックしなければいけません。

土曜日最終レース段階で「稍重」。明日は「良」～「稍重」スタートです。回復傾向にあるだけに、全体の走破時計・上がりタイムをしっかりと測りましょう。

現段階では、明日も時計が掛かってくると推測しています。

(波乱度C)

(3連単フォーメーション)

5・15・7 →13 →5、15、7、2、1、14、12、9、(11、4)

5・15・7 →5、15、7、2、1、14、12、9、(11、4) →13

(馬連ボックス)

5-15-7

3連単 05-14-13 2万3510円的中!